



うどんこ病・炭疽病を 予防しよう！

【指導員】 園芸課 高橋 達也

これからますます気温も上昇し、夏本番。今回はいろいろな園芸作物に発生しやすい「うどんこ病」と「炭疽病」の特徴と予防対策について紹介します。

【うどんこ病】

○特徴

主に葉に発生する病気で、す。下位葉から発生し、うどん粉をまぶしたように白いカビが発生します。病勢が進むと植物全体が汚白色のカビで覆われ、生育が妨げられるだけでなく、葉が黄化して枯れあがることもあります。



▲キュウリの葉に発生したうどんこ病

発生しやすい環境としては、やや乾燥した条件で多く発生

します。直接雨の当たらない施設栽培で被害が多く、露地栽培では、夏季の高温乾燥時に多発する傾向があります。また、多肥の場合でも多発する傾向があります。

○予防対策

多肥（特に窒素）を避けましょう。
剪定（枝や葉の整理）を行い風通しをよくしましょう。
乾燥すると発生しやすいため灌水をしっかりといきましょう。通路等にも灌水を実施し適湿に努めましょう。

【炭疽病】

○特徴

植物の茎や葉、果実に発生する病気です。

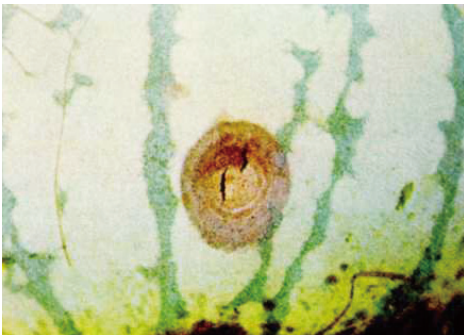
葉では丸い暗褐色の病斑を生じ、病気が進行すると中心



▲スイカの葉に発生した炭疽病

部がやくぼんで灰褐色になります。発病部が乾くと裂けたり破れたりします。

果実では、初めに小さな汚点が生じます。症状が進行すると徐々に大きくなり、病斑は暗褐色となり輪紋を生じてくぼみます。多湿のときには病斑上に淡紅色の粘質物を生じ、乾燥すると病斑に裂け目



▲スイカの果実に発生した炭疽病

○予防対策

剪定（枝や葉の整理）を行い風通しをよくしましょう。
前年度に発病した残さから菌の胞子が飛散する場合がありますので、残さについては丁寧に取り除き圃場の外へ持ち出し処分しましょう。
降雨や灌水が原因で土壌が跳ね返り、茎葉や果実に付着することで発生する場合もあります。定植時にマルチを張り、可能であれば通路等にも敷わら等の対策を実施しましょう。



病気の発生を完全に防ぐことは難しいですが、手を掛けてあげることである程度の発生を防ぐことは可能です。省コストにも繋がりますので、是非実践してみてください。